

C-03

見知らぬ誰かとあんしんして助け合える デバイスのフェイク防止技術

着目した世の中の課題

インターネットの普及により、見知らぬ誰かが投稿した「遠くの情報」が簡単に手に入るようになりました。しかしその情報を信じてよいのか、フェイクではないのか、いつだって疑わなければなりません。「自身が本当に求めるあんしん安全な遠くの情報」は手に入りません。

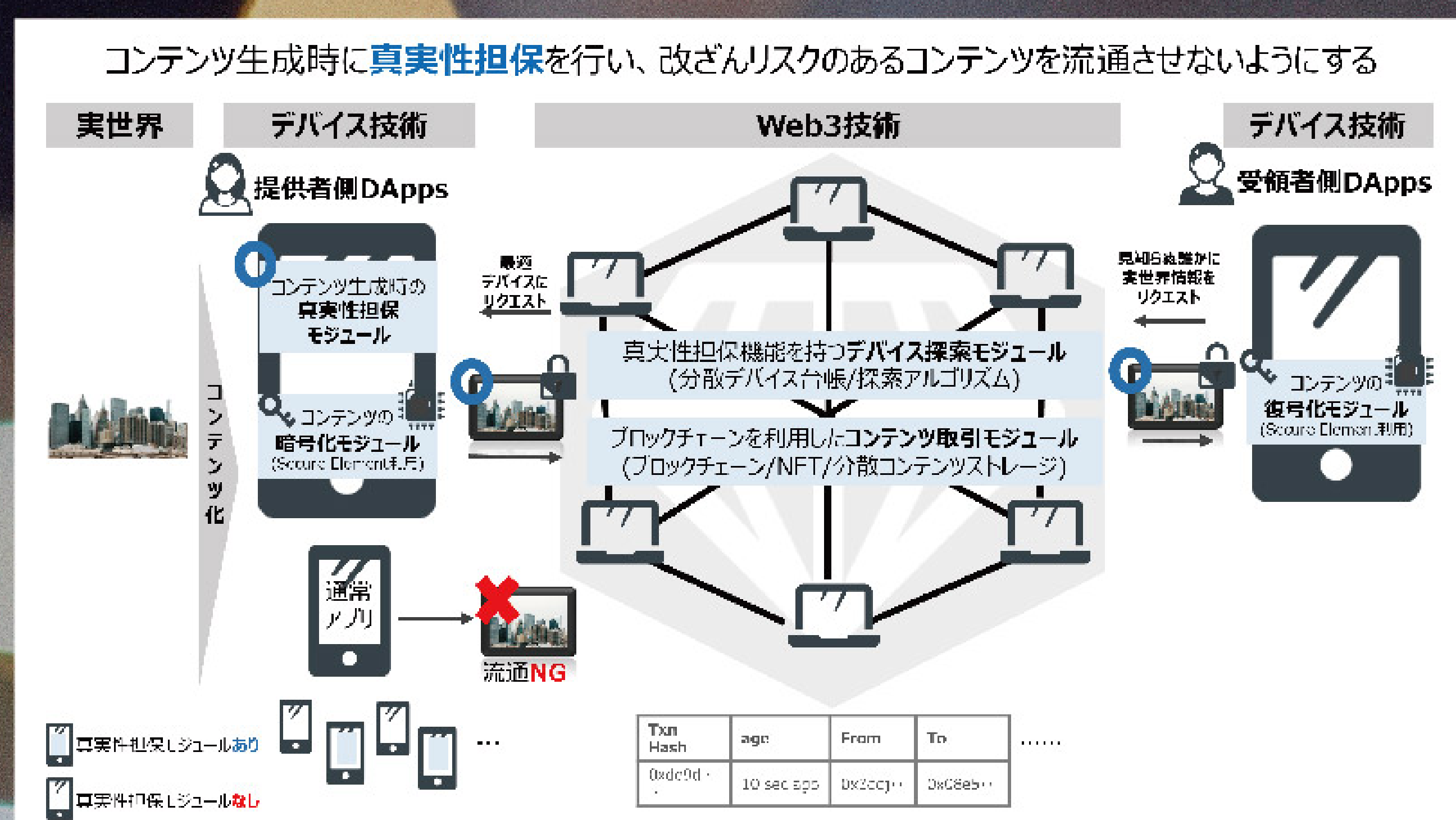
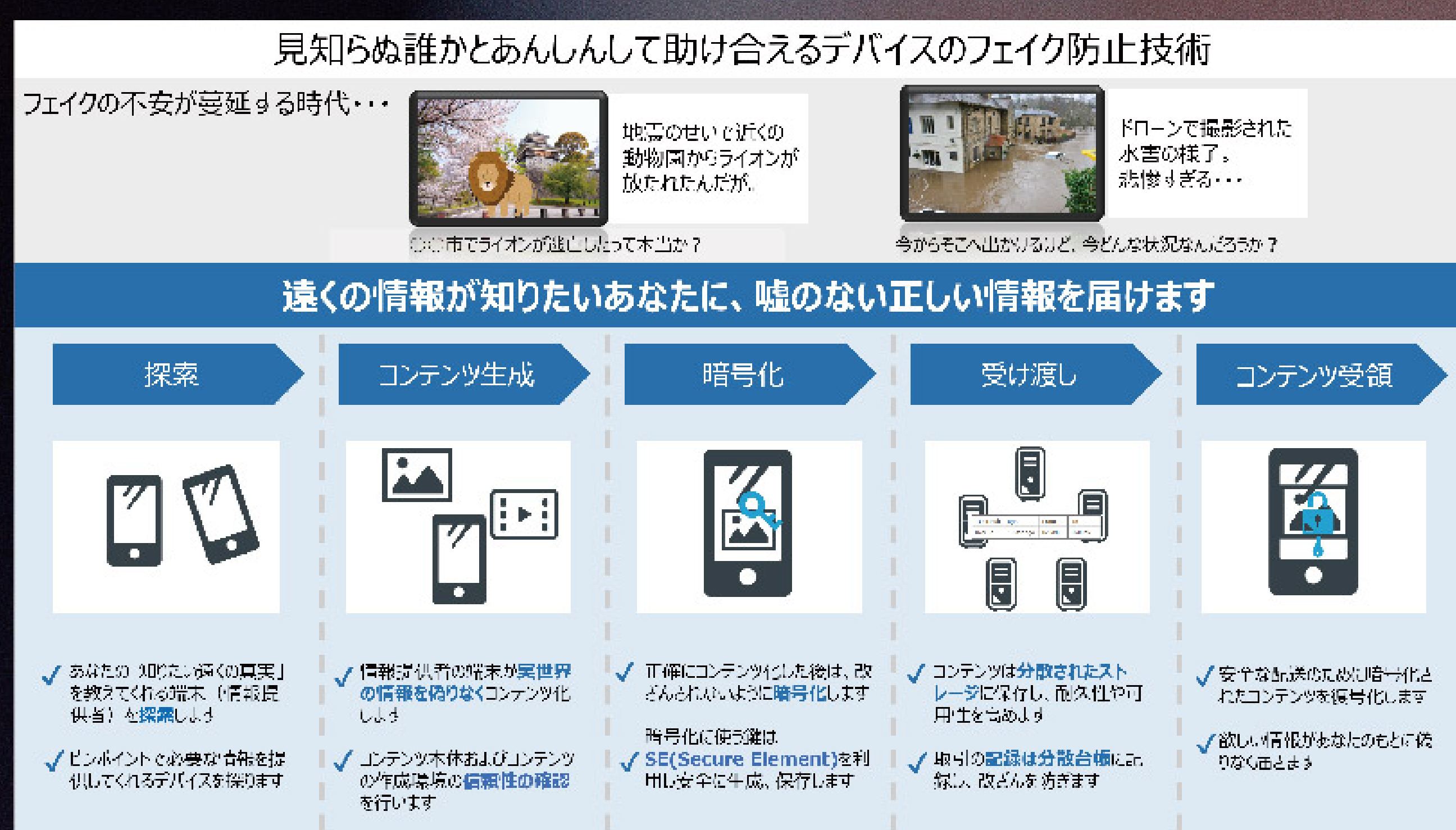
解決となる取組み

概要

実世界情報のデジタル化を担うデバイスを起点に、遠くの情報を求める人、その遠くに存在する見知らぬ誰かを結び付け、フェイクのない真実性を担保した「自身が本当に求めるあんしん安全な遠くの情報」を授受できるようにする技術開発の取組みです。

取組みを支える技術

コンテンツの生成段階で真実性を担保・暗号化するデバイス技術(SEなど)、コンテンツを作成可能な遠方デバイスを探査するWeb3技術、真実性が担保されたコンテンツのみを流通/取引させるWeb3技術などです。



災害・紛争等が発生した遠方地、
今から向かう外出先など、
知りたい遠くの"真実"が、

見知らぬ誰かの助けを借りて手に入るようになります。

"真実"を知るために見知らぬ誰かと助け合える世界を作ります。